

越中文学と「劔岳 点の記」

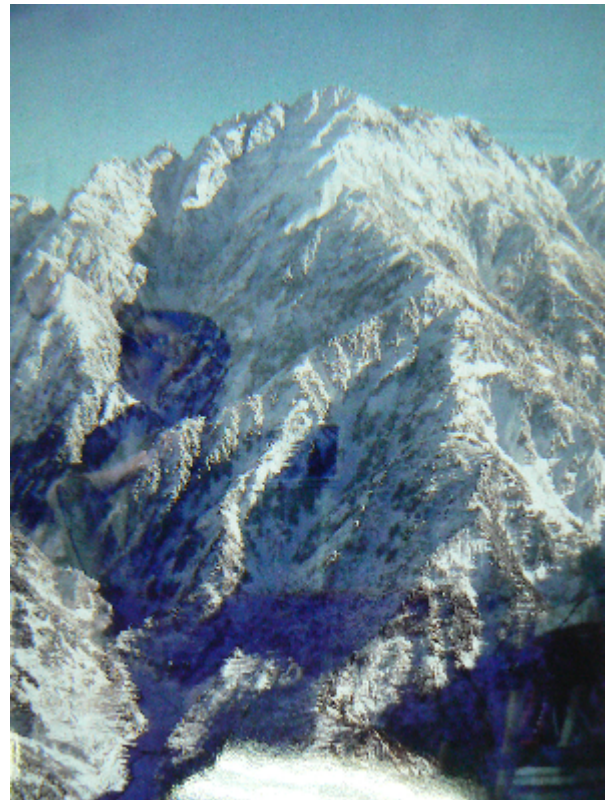
2009年6月1日(月)～6月12日(金)
百周年記念館ギャラリー

緑の美しい6月となりました。今月前半は、高校総体や体育大会など、大きな行事が目白押しです。特に3年生にとっては高校生活のひとつの区切りとなる行事ですから、全力で取り組み、納得のいく結果とよい思い出を残すよう期待しています。

さて、記念館ギャラリーでは、「越中文学と『劔岳 点の記』」と題し、富山に関わりのある文学作品や、「劔岳 点の記(新田次郎作)」について展示します。今回の展示は、6月20日から全国公開される、富山を舞台にした映画「劔岳 点の記」にあわせたものですが、郷土である富山を見直す良いきっかけを私たちに与えてくれるでしょう。

劔岳は古来「針の山」「死の山」と恐れられ、誰も登ったことのない山でした。物語は、日本地図最後の空白地点を埋めるため、劔岳に登った陸軍の測量手・柴崎芳太郎達の記録です。

加えて、下に富山県を舞台にした小説・随想を挙げておきました。様々な作家が、富山県を舞台に書いているのが分かります。詳細は展示を見て下さい。



「劔岳」高崎英之氏 撮影(63回生)

〈 富山県を舞台にした小説・随想 〉

- 【 富山市 】「漂民宇三郎」(井伏鱒二)「富山の薬と越後の毒消し」(坂口安吾)「初恋物語」(源氏鶏太)「神通川」(新田次郎)「螢川」(天の夜曲)(宮本輝)「風の樞」(五木寛之)「呉羽の羅漢山」(水上勉)「風の盆恋歌」(高橋治)「花子のくにの歳時記」(辺見じゅん)「時を呼ぶ声」(久世光彦)「納棺夫日記」(青木新門)「風の盆幻想」(内田康夫)
- 【 高岡市 】「七夕の町」(井上靖)「蒼龍の系譜」(木々康子)「青桐」(木崎さと子)
- 【 魚津市 】「押絵と旅する男」(江戸川乱歩)「屋気楼」(柴田錬三郎)「戦争の夏の日」(吉本隆明)「越中の水・富山の水」(池田弥三郎)
- 【 その他 】「長い道」(柏原兵三)入善町、「早春の旅」(志賀直哉)・「高熱隧道」(吉村昭)黒部市、「黒部の太陽」(木本正次)・「恐怖の骨格」(森村誠一)立山町、「延段」(須山ユキエ)射水市、「山の魂」(三島由紀夫)砺波市、「街道をゆく一五箇山の村上家」(司馬遼太郎)・「オロロのいる村」(遠藤和子)南砺市 他

「劔岳 点の記」の原作者である新田次郎氏のご家族は、文筆一家として有名です。夫人である藤原てい氏も作家であり、加えて、次男の正彦氏の「国家の品格」(2005年)が200万部を超えるベストセラーになったことは、記憶に新しいところです。また、長女の咲子氏も、家族を書いた小説を発表しています。ここでは、新田次郎氏を簡単に紹介しましょう。詳しくは、6月2日(火)16:00から視聴覚室で開かれる教養講座に参加して下さい。

・ **経歴** : 新田次郎氏は、長野県諏訪郡上諏訪町(現:諏訪市)に、彦・りゑ夫妻の次男として生まれた。叔父に、気象学者の藤原咲平氏がいる。ペンネームは“新田の次男坊”からとったとか。無線電信講習所(現:電気通信大学)を経て、中央気象台(現気象庁)に入った。この時の経験をもとに書いた「強力伝」で1956年に直木賞を受賞、1974年には吉川英治文学賞を受賞した。1980年、67歳で死去。自然の脅威を描いた数多くの作品があり、下記の通り、多くが映画化・テレビドラマ化されている。1988年のNHK大河ドラマ「武田信玄」の原作は新田氏によるものである。

・ **作品** : 「蒼氷」「強力伝」「縦走路」「富士に死す」「孤高の人」「銀嶺の人」「槍ヶ岳開山」「珊瑚」「八甲田山死の彷徨」「アラスカ物語」「富士山頂」「芙蓉の人」「怒る富士」「栄光の岩壁」「武田信玄」「武田勝頼」「新田義貞」「ある町の高い煙突」「小説に書けなかった自伝」「アイガー北壁・気象遭難」「冬山の掟」等

・ **映画化作品** : 「白い夏」斉藤武市監督、「ふるさとの風」原研吉監督、「海流」堀内真直監督、「風の中の瞳」川頭義郎監督、「富士山頂」村野鐵太郎監督、「八甲田山」森谷司郎監督、「アラスカ物語」堀川弘通監督、「聖職の碑」森谷司郎監督等

富山を舞台にした作品の一節を紹介しましょう。(展示より)

【 劔岳 点の記 】 新田次郎 作

雲の海に飛び飛びに島のように並んでいる先端に、劔岳が悠然と浮かんでいた。舟を漕いで行けば二時間ほどで行けそうだった。しかし雲の海に浮かんだ劔岳という島は、容易に寄りつくことのできない白い島だった。白い大理石の断崖にかこまれたその島だけが雲海上に浮かぶ、唯一の神秘的な島に見えた。
(「劔岳 点の記」より)

【 黒部の太陽 】 木本正次 作

このトンネルが、そしてこのトンネルだけが、人跡未踏といわれた秘境黒部の上流地帯に、直接に現代の『文明』を運び込むルートなのである。日本最大を誇る大アーチダムの、莫大な量のセメントや鉄材や骨材にしても、或いは十キロ余り下流に掘削しつつある地下発電所に据える、巨大な発電機にしても、このトンネルが貫通してこそ、始めて運び入れることが可能になる。
(「黒部の太陽」より)



【 山と溪谷 】 田部重治(本校14回生)作

数ある山岳随想の中で「山と溪谷」が支持された理由の一つに、表現の豊かさがある。「薬師岳と有峰」では、薬師岳山頂から黒部の溪谷などを眺めた感想をこう記した。「これらの壮麗な山々、この神秘的な溪谷は、私が予想していたものよりも遙かに優れているものであった。そしてこれを知らずにいた私の何と貧弱なものであったろう。これを知った私の何と今や喜めるものであろう。私はすっかり興奮してしまった。」自然と向き合った時の心の動きを誠実に伝える文章が、多くの読者を山へといざなった。田部の文章が情感豊かだったのは、山の自然を通じて人間の命や心について考えていたからだ。

(連載「越中文学館」より、引用は「山と溪谷」)